

留学報告書

21014076 堂口梨奈

8月26日～12月20日までの約4ヶ月間、私はアメリカのミズーリ州にある Northwest Missouri state University というところに派遣留学をしてきました。行く前の事前準備では東京までビザを申請しに行ったり、パスポートを作ったりしました。また、事前指導として先生や先輩方から注意事項や体験談を聞いたりして、モチベーションをあげていました。偶然にも仲のよい先輩がアメリカの同じ場所に去年派遣留学に行っていたため、その先輩から大学についての詳しいことや、アメリカについてのこと、持ち物のことなどなんでも相談していました。私は海外に出るということが今回で初めてだったため不安でいっぱいでした。なので、この事前指導や相談は私にとってとてもありがたいものでした。そして出発の当日。成田空港についていざ飛行機に乗った時、飛行機の中ではすでに外国の方々でいっぱいでした。この時点からアメリカへの派遣留学は始まったのだと思い、少し緊張と不安があったのですが、飛行機に乗って席に向かう途中、とある黒人の方と目があいました。その方は私と目が合うと、視線をそらさずにずっと私のことを見てきたため、外国の方は目が合うと視線をそらさないのか。という疑問も生まれ、外国に対する異文化の興味もこの時点から高まり、これからの留学に自然とワクワクしていきました。そして飛行機とバスでおおよそ14時間乗車し、ようやく大学に着きました。大学に到着する前にいったんマクドナルドで休憩を挟んだのですが、もちろんのことメニューが全て英語で書かれてあって、注文しても発音が良くないせいで何度も聞き返されてしまい、結局メニューの名前ではなくナンバーで答えてようやく伝わったことが少しショックでした。ドリンクのサイズは想像していた通りとても大きくて、顔のサイズと変わらないくらいでした。そのため、全部飲み干すことはできませんでした。休憩を終え、ようやく大学に着いたのですが、事前指導では日本人留学生は皆同じ寮だと聞いていたのですが、21人中私を含め8人だけ別の寮でした。そこでも衝撃だったのですが、部屋にしてみると布団やタオルがないうえにその後もどうするのかわからない。さらには、日本から一緒についてきてくださった先生もいなく、居場所も分らないうえに携帯も使えない状況に8人は陥ってしまい一斉にパニックになってしまいました。とりあえず一階にあるカウンターオフィスのところ外国の方がいたため、拙い英語で助けを求めたのですが、相手の英語がよく聞き取れなかったり、ちゃんと伝わらなかったりして1日目からとても苦戦をしました。しかし、このことによって自分の英語力を理解し、これから頑張ろうという気持ちにさせてくれました。

次の日から1週間ほどの間は授業ではなく事前準備や授業・施設の説明、レク

リエーション、イベントが行われました。イベントでは大音量で音楽が流れる中ダンスをしたり、曲に合わせて花火があがったり、盛り上がるものばかりでした。その後、授業が開始されたのですが、いざ授業が始まるともちろんのこと日本語を話す教授はいません。教科書も資料もすべてが英語でした。そのため、英語を読み書きできないことや、聞き取れないこと、日本語ではこう言いたいのに英語ではなんて言ったらいのか分からないことなど、どうしたらいいのか分からないことだらけでした。しかし、教授はそんな私や他の生徒をみても怒るということは一切せず、私たちの言葉をじっくり待って、それじゃああなたはこう言いたいのか。という風に確認をとって会話を弾ませてくれました。そういった暖かくて優しい教授だったため、分からないことの質問をしに行ったり、相談しに行ったりと、自然と自分から会話をすることができるようになりました。また、私が精神的に悩んでいるときでも味方になってくれて元気がでるようにハグもしてくださったり、クラスが静かだと盛り上げるようにしてくれたり、とてもよい教授ばかりで授業をするのが楽しかったです。授業は1コマ50分単位で、月曜日から木曜日は9時から3時までの授業でした。また、金曜日は前期では1時間だけ、後期は休みで毎週3連休だったので、その時間は部屋で体を休めたり、近くのお店に出かけたりしました。

休日にはハロウィンやHomecoming、フットボールの試合やField Tripなど、イベントもたくさんありました。ハロウィンでは、町に出かけて子供たちにお菓子をあげたり、お化け屋敷にも行ったりしました。アメリカのお化け屋敷はやはりクオリティが高く、泣いてしまう人もいるくらい恐怖感あるものでした。パーティではESLの皆が仮装をしてゲームをしました。私はルイージに仮装をして



楽しみました。町にいた子供たちもそうだったのですが、アメリカはやはり仮装をする人たちが多くて感心しました。Homecomingでは、大学付近でパレードが行われました。その日は風が冷たく、とても寒い日だったのですが、パレードで歩いている人たちは薄い衣装を着ているのに対し、一生懸命楽器を吹いたり、笑顔で観覧者に手を振ったりしていたので、外国の方々のパワフルさを感じました。また、クリスマスの時も町でパレードが行われたのですが、パレードで歩く人たちはみんな観覧者にお菓子を配っていました。Field Tripでは動物園と博物館とショッピングモールに行きました。ショッピング

モールでは服やお土産、お菓子などを買いました。メリービルにはあまり洋服屋さんがないうえに、お土産になるというようなものが少なかったので特に女子の留学生たちは大いに楽しむことができました。

休日の時間の過ごし方の中でも私が一番の思い出に残っているのが FIS というものです。これは各生徒 2 人とそのホストファミリーと一緒に出かけたりするものなのですが、私たちのホストファミリーと、別のホストファミリーとの仲がよかったため、生徒 4 人、ホストファミリー 4 人の計 8 人で行動することが多かったです。私たちの FIS は毎週日曜日、教会に行くことが決まりでした。初めて教会に行ったとき、私の想像としては、オルガンを使った讃美歌を歌うのだろうと思っていたのですが全く別物で、ギターやピアノ、ドラムなどを使ったジャズっぽい歌で、皆で一緒に歌おうというものでした。毎週日曜日に教会に行っていたため、さまざまな出会いがありました。中でも一番仲良くなったのは 16 歳の男の子でした。彼は歌の時に前に出て歌う人たちの中の 1 人でした。彼の歌声はとても透き通っていて、初めて聞いたときはとても驚きました。また、彼は高校生であり、劇団に入っているためホストファミリーと一緒に劇を見に行ったこともありました。劇では彼は中心人物として大いに活躍しており、見事な演技を披露してくれました。その他にも FIS ではさまざまなことをしたり、出かけたりしました。9・10 月ごろはまだ日が落ちるのが遅く、気候も暖かかったため、モーターサイクルに乗って遠くへ出かけたこともありました。モーターサイクルに乗ったのは人生で初めてだったので乗っているときとてもワクワクしました。大学があるメリービルは田んぼや牛が多いため、夕日をバックにモーターサイクルに乗りながらそれらを眺めることがとても気持ちがよかったです。



しかし、モーターサイクルに乗って帰っているときに大雨が降った時もありました。大雨と雷の中モーターサイクルに乗ることは危険かもしれませんが、それもそれでとてもいい経験になったと思います。モーターサイクル以外にも、車に乗ってご飯を食べに行ったり、買い物をしに行ったりすることもありました。ご飯は、アメリカならではのものや、中華料理、メキシコ料理などさまざまなものを食べることができました。また、食べに行くだけではなく、作っていただくということもありました。というのは

パットさんという方が料理をすることが得意だったので、ハンバーガーやホットドッグ、ピクルス、ジャムなどをいただきました。中でもピクルスとジャムは自家製のものです、大量に作って保管するものでした。そのため、ジャムは一緒

に作ったのですが、大量に保管するだけあって、大量の果物と砂糖をいっぺんに混ぜて、とても体力のいるものでした。このように、たくさんの料理を食べることができ、どれもとてもおいしかったのですがボリュームがあるものだったので、アメリカの食文化についても学ぶことができました。また、**Thanksgiving Day** でもとても濃い1週間を過ごすことができました。ホストファミリーの友達の家を招待してもらってクリスマス仕様にデコレーションされた家でご飯を食べたことや、一緒に映画を見に行ったこと、他の **FIS** と合同でスモアをしたことだったり、買い物に行ったことだったり、とても充実をした日々ですべてがよい思い出に残る経験でした。そのため、**Thanksgiving Day** の最後の日、私たち日本人4名が日本食を作ってプレゼントしよう。と思い、すき焼き丼を作りました。しかし、ご飯をうまく炊くことができず少し失敗をしてしまいました。それでもホストファミリーの方々はおいしいと食べてくださったのでとても嬉しかったです。私にとって **FIS** はとても有意義な時間となり、毎週日曜日の **FIS** の時間がとても恋しいものとなりました。**FIS** で過ごした時間は今後の私のよき思い出として一生忘れられないものであると思います。

このようなアメリカに留学をするという体験は今しかできないことなのではないかと思います。私にとっては初めての海外だったのですが、不安も緊張も恐怖さも大いにありました。しかし、現地に行ってみると外国の方々の心優しい対応やパワフルさなどのおかげで自然とそれらに打ち勝つことができました。というのは、見知らぬ外国の方でも目があえば挨拶をしてくれたり、いきなり話しかけられて仲良くなったり、ドアも自分が開けて他の人が入るまで開けて待っていてくれたりと、とても優しい人ばかりでした。なので、外国の方々と共に盛り上がることができました。また、外国の方々の勉学・将来に対する姿勢や熱心さにも心が熱くなり、とても感心もて、自分も見習わなければならないところも沢山発見することができました。アメリカに来たことによって、様々な発見や異文化理解、考え方のちがいなど、新たなものをたくさん学ぶことができ、今後への進歩として活かせるのではないかと思います。この派遣留学制度を活用してよかったと心から思います。